



令和 6 年 8 月 28 日

岡山大学病院 周産母子センターにおける NICU/GCU の拡充について

周産期に関わる高度な医療を提供する医療施設「周産期母子医療センター」は、限られた医療資源を最大限に活用しながら、産科と新生児科の双方が綿密に連携協力して、周産期医療に関連する十分なサービスを県民に提供するものです。周産期母子医療センターは都道府県によって認定されるもので、施設の規模に応じて「総合周産期母子医療センター」と「地域周産期母子医療センター」に区分されます。総合周産期母子医療センターはMFICU（Maternal Fetal Intensive Care Unit：母体胎児集中治療室）、NICU（Neonatal Intensive Care Unit：新生児集中治療室）、GCU（Growing Care Unit：新生児回復室）をすべて備えた施設です。

岡山大学病院はこれまで地域周産期母子医療センターとして、NICU 6床・新生児室 12床（GCU はなし）で診療してきましたが、NICUが満床になった場合、近隣病院への母体搬送や新生児の受け入れをお願いしていました。しかしながら、近年、産科救急の受け入れ先としての重要性和、母体合併症に伴い出生した早産児や重症の先天性外科疾患を有する新生児を受け入れる必要性がますます高くなってきました。そのため、岡山県や近隣病院との協議を経て、令和6年9月1日よりNICUおよびGCUを拡充することになりましたので、お知らせします。なお、令和7年度にはMFICUも設置する予定としています。

<現状>

これまで、岡山大学病院周産母子センターは地域周産期母子医療センターとして、NICU（新生児集中治療室）6床・新生児室 12床（GCUはなし）で診療を行ってきました。しかし、これらの病床数に対して当院へ搬送や入院される患者さんは多く、NICUの不足やGCUの整備がないことからすぐに満床となり、近隣の医療機関に母体搬送やNICUに入院する必要のある新生児の管理をお願いする状況がたびたび続いていました。

岡山大学病院は多くの専門科を有する高度医療提供施設として、①重症合併症を有する母体について多くの専門科が連携して対応でき、かつ、②複雑な重症先天性疾患を有する新生児について集中治療を実施できます。近年、当院では母体産科救急の受け入れ先としての重要性が増しており、加えて、NICUに入院する必要度の高い新生児、とりわけ、母体合併症に伴って早産で出生した児や重症の先天性外科疾患を有する新生児の受け入れを円滑に行う必要性が増してきたことから、これら病床の整備について、岡山県や近隣医療機関との協議を重ねてきました。

その結果、岡山大学病院において令和6年度にNICU 12床、GCU 12床に増床し、同7年度にはMFICU 6床を新たに設置することとして、改修工事を行うことが決定しました。



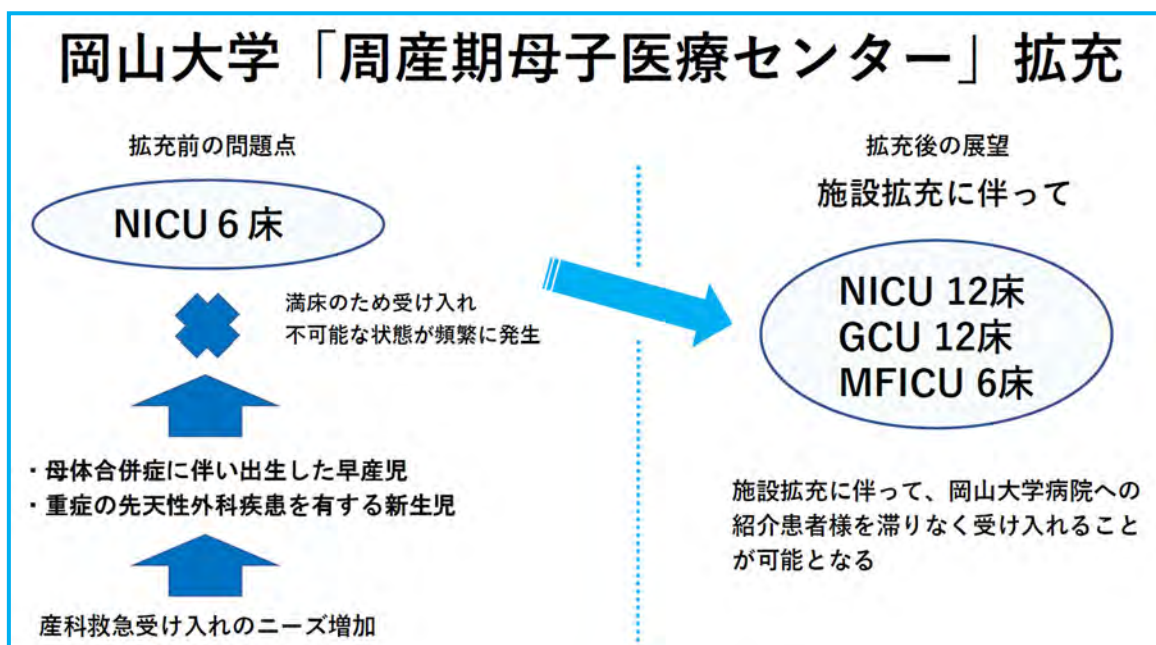
PRESS RELEASE

<社会的な意義>

令和6年9月1日、岡山大学病院周産母子センター（入院棟4階）はNICU12床、GCU12床での運用を開始します。同センターを拡充することにより、重症合併症を有する産科救急疾患のスムーズな受け入れが可能になるほか、NICUに入院する必要性の高い新生児の受け入れを他の医療機関に依頼することも少なくなります。また、周産期医療を専門とする医師の育成に力を注ぐことにより、持続可能な周産期医療の構築にも貢献できると期待されます。

<今後の展望>

このたびのNICU/GCUの拡充に加えて、令和7年度にはMFICU（母体胎児集中治療室）の新設も予定しています。私たちは岡山県における周産期医療体制が盤石なものになるよう、近い将来には「総合周産期母子医療センター」の認定を受けられるよう、当院の周産期診療体制をより強力なものにしていきたいと考えています。地域の皆さまや関連医療機関におかれましては、これまで以上のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



NICU（令和6年8月2日撮影）



GCU（令和6年8月2日撮影）



<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）産科・婦人科学 教授

岡山大学病院 周産母子センター センター長

増山 寿

（電話番号）086-235-7317 （FAX番号）086-225-9570

（メール）masuyama@cc.okayama-u.ac.jp



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

